

救命講習

たんぽぽの家

平成29年6月6日（火）に田名分署から3名の講師が来園され普通救命講習を行いました。職員33名が3グループに分かれ心肺蘇生法・AEDの使用を実技中心に3時間受講しました。現在の普通救命は2015年に改訂された手順で実施しているとの事、普通救命もAEDなどの浸透により年々刷新されている事を知りました。

当日は3グループに分かれ基本的な対応を教わった後に施設内の具体的な場面を想定し、救急隊の平均到着時間である6分間心肺蘇生法を体験しました。研修報告から6分間という時間が思った以上に長い事、心肺蘇生を行いながら救急車の要請やAEDを持ってきてもらう人をどのように呼べばいいのかなど多くの課題が見えてきました。心肺蘇生の基本を身に付けつつ職員間の連携を深めていきたいと考えます。



いきいきサロン相模台を訪問！

マシマロ保蔵園

6月3日（金）に5歳児ちょこ組が地域の高齢者ふれあいサロン『いきいきサロン相模台1』を訪問しました。毎年、4、5歳児を対象に開園以来続けている交流で、この日参加した5歳児も昨年に引き続き2回目となり、会場の雰囲気や一緒に歌を唄ったりゲームをして遊んだことを覚えている子もいました。昨年初めて訪問した時は緊張のあまり動きも小さく消極的だった子ども達も、今年は歌やダンスの発表、ふれあい遊び等を笑顔で堂々として行っていました。そして、サロンスタッフの方が用意して下さった紙風船の入れゲームをご利用者、スタッフ、子ども達の3チーム対抗戦で行い更に雰囲気が盛り上がりました。ちなみに園児チームは残念ながら最下位で、罰ゲーム（ちょこ組の罰ゲームではポピュラーな）『おしりフリフリ』を披露し、皆さんの笑いを誘っていました。

この交流は核家族が多い現在において地域の高齢者の方と関わりを持つことで、子ども達の中に優しさやいたわりの気持ち、感謝する心が育まれる良い機会となっています。また、継続すること、世代の違う人たちの前で発表することで、一人ひとりの子どもの自信に繋げることができています。

参加した誰もが笑顔になれるふれあいサロン交流を、今後も続けていくことができるよう切望します。



Part: 112 相模はやぶさ学園 山口 優美

職員コラム



私は海外旅行が好きです。知らない土地で色々な人々と出会い、言葉は通じなくてもコミュニケーションをとることが出来る点にとっても魅力を感じています。その国の文化や人柄に触れ、多くの刺激を受けることで自分自身も少しずつ成長していける気がしています。また、自分の目で見た物を写真に残すことも好きです。その時の思い出をいつでも見返せるようカメラで記録しています。帰国する時は「帰りたくない」と思っている日本に降りたつとやっぱり日本が一番心地よく安心します。同じように相模はやぶさ学園の子ども達にとっても、居心地がよく安心できる場所になるよう、子ども達と一緒にたくさんの思い出を作りながら共に成長していけるよう、一生懸命頑張っていきたいと思っております。

寄付・寄贈（敬称略・順不同）

【寄付】 野田 義男 白井 光輝 【寄贈】 金銅 幸俊（NPO法人援農さがみはら）
北村 義克 東西 悦子

紙面上からではございますが厚く御礼申し上げます。

▼第391号の全ての文責等は、『福祉村だより』編集委員に属します。

福祉村だより

題字 相模福祉村代表：赤間 一之



7月号No. 391

2017年7月1日発行



相模福祉村をわが街の文化に ～福祉は人、福祉は心～

発行人

相模福祉村理事長 赤間 源太郎

住所 相模原市中央区田名6769

E-mailアドレス sagamifukusimura@tanpoponoie.or.jp

ホームページアドレス <http://www.fukusimura.or.jp>

発行所 相模福祉村たんぽぽの家

電話 042-761-7788 FAX 042-763-3318



ホームページQRコード

第26回おらが村文化祭開催

6月24日相模原市民会館にて第26回おらが村文化祭を開催しました。今年のテーマは「相模福祉村をわが街の文化に」副題を“福祉は人 福祉は心”としました。私たち相模福祉村の文化活動の発表の場として、また地域社会の皆様との交流を図る機会として準備を行なってきました。

今年のオープニングは相模福祉村の各施設から選ばれた職員による演舞でした。この文化祭に向けた意気込みをジャズダンスで表現出来るように勤務終了後に青い鳥に集まり猛特訓の日が続きました。この集まりで初めて顔を合わせる職員もいればダンス未経験者もあり、多くの困難のスタートでしたがダンス経験者職員による緻密な指導と熱心な練習の繰り返しで当日は華やかな演舞で表現できたと思います。

各施設の舞台発表の場ではそれぞれのオリジナリティーを出せるように工夫した劇やコーラス・舞踏などがつぎつぎと披露されていきました。本番で上手に出来た人も出来なかった人も、この日に向けて各施設で練習を重ねてきました。一部ですが文化祭を迎えるにあたってどのような様子だったかお伝えしたいと思います。



青空

青空は日中活動施設として光が丘と相模原に分かれて活動しています。文化祭では合同で参加し、本年度は合唱「空より高く」と手話うた・踊り「世界に一つだけの花」を演技しました。練習を始めた頃の合唱ではなかなか歌声が出せなかったり、手話うた・踊りではなかなか覚えられなかったり、動きがばらばらで合わせられなかったりと大変でした。それでもご利用者一人一人が一生懸命に取り組まれようとされている姿を見て、私達職員もパワーをいただきました。本番ではこれまでの練習以上に上手に演技され、私達職員もうれし涙が込み上げてきました。

クラーク学園

相模クラーク学園は開所より3年目を迎え、相模福祉村の仲間として諸先輩方の後を追い、また地域の中で様々な交流も増えてきました。演目の舞踊や合唱では普段なかなか見られない皆様の緊張の様子や笑顔が印象的で、時間と共に自信に変わっていききました。当日は明るく楽しく相模クラーク学園らしい姿をお見せする事が出来たかと思っています。何より、相模クラーク学園では文化祭をきっかけに新入生と皆様がさらに団結し友情を深められる場所となっています。このような舞台に上がる機会を与えて頂き感謝しています。

照手

今年の文化祭のサブテーマが『福祉は人 福祉は心』法人の原点に立ち返るものでした。照手でも「照手の原点とは…」と考え抜いた末に辿り着いたのが“元気”と“思いやり”という2つの言葉でした。そのコンセプトに従い演目を設定しました。

毎日練習を行いリハーサルが終わった後は照手全員で円陣を組み、心をひとつに本番での成功を祈りました。そして期待と不安が入り混じる中で本番を迎えました。ハンドベル『千の風になって』から始まり、合唱『365日の紙飛行機』、ダンス『ヤングマン』を全力で行うことができました。毎年のことですが、照手の皆さんの持つ力の大きさに驚いています。

青い鳥

昨年はオープニングへの出演という形で、初めてのおらが村文化祭に参加した青い鳥の子ども達。本格的な参加となる今年はいちごやメロン、ぶどう、パイナップルといったかわいいフルーツに変身して、元気に「フルフルフルーツ」と「ちびっこまんたいそう」を踊りました！

朝の体操の時間に新しい体操として取り入れ練習を進めていきました。いつもと違う体操に初めは「なんだろう？」と不思議そうにする様子も見られましたが、楽しいリズムにすぐにノリノリで、練習はいつも大盛り上がり♪

当日は会場の慣れない雰囲気にもちよっぴり緊張ぎみの様子が見られた子ども達。職員と手を繋ぎいざ本番へ！広い舞台を満喫したり、職員の心配をよそにいつも以上に張り切って元気なダンスを踊る姿が見られたり、当日参加した全員でステージに上がる事が出来ました。「よく頑張ったね」と褒められるとみんな嬉しくてニコニコ、とても貴重な経験となりました。

皆様、会場での温かい手拍子や拍手をありがとうございました。

今年も多くの方に支えられこの“おらが村文化祭”を開催することが出来ました。ご出演頂いた皆様、ボランティア等にご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。



おらが村文化祭 ダイジェスト



たんぼぼの家 劇：金の斧銀の斧



マシュマロ保育園 届けよう僕らの歌を



相模はやぶさ学園 ダンス



縁JOYキッズ+ 踊り



虹の家 劇：猫と酒と絆と